



## 子どもたちの未来と被ばくを考える会

発行日 2021年2月25日 事務所:和歌山市三番丁6番地三番丁ビル4階金原法律事務所内  
<http://kodomomiraikibou2012.seesaa.net/> 連絡先・事務局:TEL:073-451-5960(松浦)



## 東京電力福島原発事故から10年



### 子育て・出会い・学びの10年。そしてこれから…

芝野 絢子

福島原発事故から10年。

この10年間は、私にとって子育ての10年であり、原発や社会的な問題に関心をもって動くことで、様々な人と出会い、たくさん学ぶことができた10年でもありました。

2011年、和歌山に引っ越してきて間もなかった私は、孤独と不安の中で、赤ちゃんを二人過ごしていました。そんな時に起きた東日本大震災と原発事故。インターネットで原発事故について調べ、放射能汚染がどれだけ人体に悪影響を及ぼすか初めて知り、とてもショックを受けました。

目の前の赤ちゃんを守るために何かしないといけない、周りのお母さんたちにも放射能の危険性を伝えたいと思い、調べたことをまとめ「でんでんむし通信」というビラをつくり、子育て広場に掲示してもらったり、知り合いになったママ友たちに配りました。

その後、和歌山市に放射能汚染された瓦礫が持ち込まれるかもしれない、ということで、市に要望書を提出しにいったことがきっかけとなり、この会が結成され、その一員として活動を続けてきました。

内部・外部被ばく、核のゴミ、エネルギー、低線量被ばく問題等、様々な講演会や学習会を主催したり、イベントに参加することで、会のメンバーでなければきっと知らないままだった多くのことを知ることができました。

今だけ、自分のことだけではなく、次世代や環境や社会全体のことを真剣に考えている素晴らしい方々と出会い、つながりを深めてきました。

乳幼児の子育てをしながらの活動は、大変な時もありましたが、皆さんの温かい目に見守られ、優しい言葉かけに支えられ、子どもたちもすくすくと成長することができました。

コロナ禍ということもあり、また私自身新たな仕事を始めたこともあり、最近は活発な活動ができていません。

しかしこの10年で経験してきたことは、今の私の価値観をつくっています。

今、日本列島は再び揺れています。原発がある以上、10年前と同じ、或いはそれ以上の原発事故も今後十分に起こりえます。

私たちが日々穏やかな生活を続けていくためにも、皆が無理のない範囲で、この問題を考え、共に学び続けていきたいと思っています。